

開講日	2009年4学期 金曜日 18:30-20:30	講義場所	研究棟11階講義室B	医	技	保
				○	○	○
コーディネーター	芸術工学研究科 教授 鈴木賢一, 准教授 横山清子 医学研究科 助教 榎原 毅			※●:コア科目、○:選択科目		

科目概要 および 期待される 成果	<p>【概要】患者にとって安全で快適な療養環境、さらに、医療現場における安全で快適な労働環境の条件、設計論、評価手法の理解を目的とする。環境設計・評価の基本的な内容と同時に、特に、近年注目されてきている医療安全担保のための人間中心設計の概念、手法論を学習する。</p> <p>【期待される効果】医療従事者が、患者にとっての安全・快適な療養環境作りへの配慮を行うことができる。また、安全・快適な労働環境への理解を深めることにより、医療従事者の健康被害を軽減し、医療事故の低減が期待できる。</p>
----------------------------	---

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
癒しの療養 環境設計	1	子どもの療養環境デザイン	小児病棟に療養中の子どもの、疾病と診療に対する不安を和らげるための療養環境のデザインの手法を学習する。	4月10日	教授 鈴木賢一 芸術工学研究科
	2	癒しの造形	乳幼児や障害児に癒しを提供する平面・空間造形について、保育施設や障害児施設の壁画制作を例に学習する。	4月17日	教授 川井一義 芸術工学研究科
	3	医療を取り巻く癒しの環境設計	患者や医療従事者にとって、安全で快適な療養環境とは本来どうあるべきかについて、医療施設を中心に癒しの空間を形成する建築・地域計画の考え方を通じて学ぶ。	4月24日	教授 谷口 元 名古屋大学
	4	高齢者施設の建築計画	わが国における高齢者のための施設設計は、現在大きなパラダイム転換を迫られている。その背景を明らかにするとともに、施設の建築計画に求められる基本的なコンセプトと、具体的な展開について考える。	5月1日	教授 高阪謙次 椋山女学園大学
安全配慮 の人間中心設計	5	緊急時における人間行動とヒューマンエラー	緊急時の人間の行動特性、起こりやすいヒューマンエラーの内容と、緊急時の医療従事者の行動指針を学習する。	5月8日	教授 斎藤 真 三重県立看護大学
	6	ヒューマンエラーと医療安全	医療安全とヒューマンエラーの基礎について学ぶ。安全を担保するには、単にハード・ソフトによる対処だけではなく、組織論的側面から「安全を重視する職場文化」を形成することが不可欠である。医療安全文化に関する最新の知見について学ぶ。	5月15日	助教 榎原 毅 医学研究科
	7	生理計測による医療従事者のシフトワークと慢性疲労	シフトワークによる生体リズムの乱れと慢性疲労を測定・評価するための生体信号の測定方法及び解析方法を心電図、血圧、筋電図などを例に学習する。	5月22日	准教授 横山清子 芸術工学研究科
	8	医療現場における人間中心インタラクションデザインの諸課題	医療現場における人と人工物との相互作用性(インタラクション性)について、一般論的な知識から、操作性・視認性に優れ、また、ミス誘発しないような具体的なインタラクションデザインの要点までを学習する。	5月29日	准教授 大坪牧人 芸術工学研究科
	9	医療福祉施設における火災安全	医療福祉施設において火災が発生した場合の火災現象の特徴、患者等の避難行動の特性、人命安全を守るために必要な職員の対応行動と空間・設備設計の原則などについて学習する。	6月5日	教授 志田弘二 芸術工学研究科
	10	医療機器のユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインの原則を学習したのち、ユニバーサルデザインに配慮した医療機器の例と設計方法について学ぶ。	6月12日	教授 國本桂史 芸術工学研究科
	11	針刺し切創防止対策の変遷にみる医療の質と医療従事者の安全確保策	1)職業感染に関連した標準予防策・感染経路別予防策のポイント、2)傷害予防のための工学的管理、作業手順管理に関する最近の国内外の科学的知見、3)労働者の安全・健康確保のための社会動向、関係法令を知ることで、医療機関における職業感染管理の実践的な進め方を学ぶ	6月19日	吉川 徹 労働科学研究所 副所長
疲労・快適 の評価とマネジメント	12	参加型人間工学アプローチによる快適職場改善手法	リスクマネジメントシステムに基づく職場改善手法として、参加型アプローチが産業分野では広く導入されている。医療従事者主体によるリスク評価と具体的改善策立案の方策について学ぶ。	6月26日	教授 岸田孝弥 中京大学心理学部
	13	医療従事者のシフトワークと慢性疲労対策	医療現場における慢性疲労対策の進め方を学ぶ。システム安全と労働者の疲労の関連は近年注目されており、シフト体制のあり方や効果的な仮眠取得に関するエビデンスなど、具体的な対処方法を学習する。	7月3日	酒井一博 労働科学研究所 所長
	14	エイジフリーに対応した作業管理と健康	医療現場に関わらず、近年の高齢化社会において労働者の高齢化と労働能力の確保対策が大きな課題となっている。身体年齢に応じた労働環境の構築および身体能力に応じた職務設計・作業管理の手法を学び、エイジフリーで健康に働ける職場環境の作り方を学ぶ。	7月10日	教授 神代雅晴 産業医科大学
	15	環境心理学手法による生活環境の快適性評価	生活環境の快適性を心理学的手法で評価するための、質問紙の設計方法、統計解析・多変量解析手法を用いたアンケート結果の解析手法を学習する。	7月17日	准教授 原田昌幸 芸術工学研究科